

源ヶ橋温泉

(大阪市生野区)

ザ・見遊じあむ

築78年の歴史的な建造物



ミュージアムメモ

▶所在地/大阪市生野区林寺1-5-33▶交通/JR大阪環状線「寺田町」駅下車東へ徒歩約12分▶営業時間/15時~25時▶定休日/毎週月曜日▶種類/主湯(深・浅)、電気風呂、オパール原石風呂、スチームサウナ、水風呂、座湯(ジェット付)▶入浴料金/大人410円、小学生130円、乳幼児60円▶連絡先/電話06-6731-4843



自由の女神の手には温泉マークが

「自由の女神」が迎える 文化財の銭湯

全国でもユニークな文化財の銭湯です。建物は1937年(昭和12年)に建てられ、文化庁認定の有形登録文化財に指定されました。屋根には鯉(シヤチホコ)が対で並び、その下には、なぜかニューヨークのシンボルである自由の女神像が立っています。「入浴」↓「二

ンでなくても一見の、いや「二浴」の価値があります。

ドキュメンタリー映画 「弁護士・布施辰治」



自由と民族の誇りをもった弁護士人生

今年、2010年は「韓国併合」100年でもありません。2004年に韓国政府は韓国独立に寄与した戦士として、弁護士・布施辰治に建国勲章を贈りました。布施辰治は戦前の暗黒の時代、日本が韓国を植民地化したなかで、韓国国民の側に立って、生活と権利の擁護に奔走しました。このドキュメンタリー映画は、今年が布施辰治生誕130年を記念して、どんな弾圧にも屈することなく人間の誇りを輝かせた弁護士・布施辰治の生き方を綴っています。

布施辰治は宮城県石巻市に生まれ、1902年(明治35年)、明治法律学校で学び、21歳で法曹界に入り、徹底して民衆の中にあつて、生命、人権を守る「社会の一兵卒」として弁護士人生を歩みました。明治時代以降の日本。軍事化と近代化を進めた「富国強兵政策」は、公害の原点といわれる足尾銅毒問題や、さらには、言論・思想の自由の圧殺、韓国人・中国人など多くの東アジアの人々を強制連行し、数百万人もの殺戮を行なった侵略戦争をひきおこしました。こうした時代にあつて、布施辰治は命の大切さ、言論・思想の自由、民族の誇りを守るために命がけて弁護士活動を展開しました。「生くべくんば民衆とともに、死すべくんば民衆のために」。これは、生涯を民衆の側に立った弁護士・布施辰治の言葉です。「一人だつて見殺しにされていい人類などいない」という言葉も残っています。いま全国で自主上映運動が起こっています。

このシネマ

ガレージ

大阪の戦跡を歩く

第57歩

京橋駅爆撃慰霊碑

(大阪市城東区)



1945年(昭和20年)8月14日午後1時前後、米軍のB29爆撃機が大阪城周辺にあった兵器工場を空襲し、1トン爆弾をばらまきました。そばにあった城東線(現在のJR大阪環状線)京橋駅にも5つの爆弾が落ち、うち1発が、多数の乗客が避難していた片町線ホームを直撃し

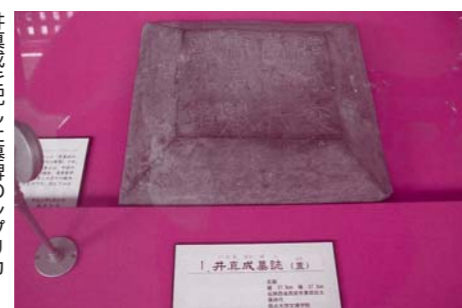
ました。氏名の判明している死者は217人。無縁仏になった人は500~600人とされています。1947年(昭和22年)に私費で慰霊碑が建てられ、毎年8月14日に慰霊祭が行われています。終戦(8月15日)前日の空襲でした。たった一日の違いで大勢の人たちが殺されたのです。

撰津 河内 和泉 三國誌 おおさか

58 (藤井寺市)

謎の遣唐使・井真成 難波(なにわ)の若き留学生

2004年10月、「日本から遣唐使として渡ってきたと思われる井真成(いのまなり)」という人物の墓誌が中国・西安市(昔の長安)内の工事現場から発見された」というニュースを、現地で発掘調査に関わっていた西北大学が発表し、日本に衝撃を与えました。墓誌とは、遺体を埋葬した墓の上に置かれた故人の経歴を刻んだ四角い石のこと。「姓は井、字(あざ)は真成、国は日本と号す。生まれつき優秀で、国命で遠く唐にまで来て、懸命に努力した。学問を修め、正式な官僚として朝廷に仕え、活躍ぶりは抜きんでいたが、急病を患い、開元22年(734年)の1月に36歳にて官舎で亡くなった。(中略)体はこの地に埋葬されたが、魂は故郷に帰るに違いない」という意味のことが記されています。この墓誌は、現存する「日本」の文字の入った最古の資料としても注目されています。



井真成を記した墓碑のレプリカ(藤井寺市生涯学習センターに展示)

「井」の姓から、当時多くの遣唐使を輩出していた「葛井(ふじい)氏」または「井上(いのへ)氏」の一族であるとされ、これら一族が住んでいた大阪府藤井寺市が井真成の出生地であるとする説が有力とされています。墓誌発見のニュースを聞いた藤井寺市民から「せめて墓誌の形でもいいから里帰りをさせてあげたい」と運動が起こり、2005年、実に1288年ぶりに里帰りが実現しました。19歳で阿倍仲麻呂らと唐に渡り、若くして赴任先で亡くなった留学生・井真成の生涯には謎が多く、歴史のロマンのひとつに数えられています。

島崎 藤村
名も知らぬ遠き島より
流れ寄る椰子の実一つ

いまも心に響く 名詩・名歌・名語録

インドの登山家・テンジン(1914~1986)の言葉。山登りは常に危険と向き合っています。厳しい条件のもとで登山を成功させるためには、チームワークが欠かせません。テンジンは1953年にイギリス人のヒラリーとともに、エベレスト初登頂を果たしました。この時も隊員たちの心は熱い友情で結ばれていたことでしょう。

山には友情がある
テンジン